

高校21期 安岡章雅さん アメリカでのコロナ状況報告（1）

いずみ会理事の安岡さんが、先月からアメリカ合衆国に長期滞在をされています。

「風と共に去りぬ」の舞台となったアトランタ、「マスターズゴルフトーナメント」会場のオーガスタ、日本でもよく知られている都市のあるアメリカ南部のジョージア州です。

アメリカ滞在期間中、現地からアメリカの現状を報告していただきます。

初回報告は、ジョージア州での新型コロナの実情です。

米国ジョージア州田舎町での新型コロナ

家族の事情で、ジョージア州の Peachtree City* という田舎町に来ています。高層ビルは全くなく、森の中に家やマーケット、会社が点在しているところです。ゴルフカート用の道が森の中を縦横に走っていて、その総延長は140キロメートルにもなることが特徴です。電動ゴルフカートがショッピングに多く使われていて、自宅からクラブを積んでゴルフコースに行く人もいます。森の中のカート道を散歩していると、リスや鹿に出会います。



町の大きなスーパーに買い物に行くと、客の4割はマスクをしていません。一応「マスクをしてください。」という表示はあります。店員はほとんどマスク着用です。



テレビのニュースを見ると小学校の父兄が「子供のマスク着用義務化に反対」というデモ集会があちこちで行われていました。一方、スーパーのセルフチェックアウトで計量の仕方がわからないでモタモタしていて、アシストに来てくれた女店員には「ソーシャルディスタンス離れてください。」といわれました。Airbnb*の宿泊を申し込んだら「ワクチン接種したか？」と聞かれました。コロナ感染防止を気にする人、気にしない人がハッキリと別れているようです。日本と違って「私はマスクをしません」、「ワクチンもうちません」とハッキリ言う人も多くいます。個人の自由を尊重してマスク着用を義務化していない州が多い。日本でも義務ではないと思いますが、私は石神井の自宅の玄関でマスクをして、炎天下でテニスをする時ですら不織布マスクを着用して、帰宅すると外していました。こちらに来てからは、家から車まで人に会わないので、スーパーに到着後車を降りる前に着用し、買い物が終わって車に戻ったら外しています。スーパーの通路は日本の1メートル幅と違って、裕に3メートル以上はあり、面積は日本の5倍以上で客数は同じくらい、レジに並ぶときには距離をあけていて、他の人と

の間隔が広くリスクは低いようにみえます。森のカート道の散歩では着用していません。15分に一人くらいしか人に会わないし、道幅も2メートルくらいある。第一、森のおいしい空気を吸って歩くのにマスクはしたくない。それにマスクをして歩いている人は誰もいない。

マスク着用が少なくなった一つの要因は、2021年5月13日に、米国疾病センターが「ワクチン接種した人はマスクを外して、通常の生活に戻ってよい。」と発表し、大統領もこの発表を紹介する演説でマスクをとって見せたことにあります。新型コロナに対する勝利宣言のようでした。未だにその時の表示が先に紹介したスーパーで剥がし忘れられていました。



その後、デルタ株等で感染が再燃して7月27日に「室内ではマスクをして。」と呼びかけたのですが、一旦とかれたマスク着用を2か月後にまた着用と言っても、民衆心理的に難しかったのではないかと思います。日本の緊急事態宣言疲れも民衆心理だと思いますが、米国の状況よりはましです。

このような状況で、新型コロナ感染はどのくらいなんだろうと調べてみました。最近一週間の人口10万人当たりの新規感染者数を見ると、ジョージア州やこの町があるFayette郡は約370人、東京都や練馬区約190人の2倍。ワクチン2回接種した人はジョージア州では41%と東京都の42%と同じくらい、こちらではワクチンはあるのに自分はうたないと主張する人が多い、日本ではうちたい人の分も足りないという状況を考えると東京の方が早く60%に達することは必定です。もっとも、ニューヨークのように既に60%の州も多くあり、州ごとの気質の差が大きいようです。一般的に南部の州は接種率が低い。

幼稚園や学校で子供が感染して、親にうつるパターンが多いようである。また、会食、外食、ホームパーティ等、私が見ていないところに感染率2倍の要因があるように思えます。

2021年8月末 安岡 章雅（高校21期）

（参考）

* Peachtree City：ジョージア州都アトランタから南へ約50 km、ファイエット郡最大の都市

* Airbnb：エアー・ビーアンドビー、朝食付宿泊民泊のOn Line 仲介サイト